

2018年JAF中国ダートトライアル選手権第6戦 2018年JMRC中国ダートトライアルチャンピオンシリーズ第6戦
2018年JMRC全国オールスター選抜第6戦 INDYスーパーダートトライアル18 [JAF公認No.2018-4015]

開催日：6月24日 開催場所：テクニクスステージタカタ 格式：準国内 主催：TEAM INDY [クラブ登録No.加盟34021]

フォト／JAFスポーツ編集部 レポート／若槻幸治郎

逆転優勝の川本圭祐選手がシリーズリーダー死守!



無心で走ったという川本選手は
今季3勝目をマークした。

テクニクスステージタカタにおいて、中国地区ダートトライアル選手権第6戦が開催された。全9戦で争われる中国地区戦だが、中盤戦の重要な一戦だ。

コースは国内屈指のハイスピードコースのタカタらしい設定。タイムも2分以上というロングコースが採用された。コースレイアウトを考えたのは、主催のチームINDY会長で、全日

本ダートラDクラスで活躍する川崎勝己氏。「下手にテクニカルにすると転倒車が出てしまうんですよ。インを引っ掛けて。特にINDYは昔からハイスピードでロングコースが名物になってますので」と笑う。

9台が参加してきたN1クラスでは、こここで2勝を挙げている川本圭祐選手がシリーズをリード。だが、第1ヒートは「久しぶりに出場しました」という長谷川和也選手がベストタイムをマーク。それを川本選手が1秒差で追う展開だ。第2ヒートに入ると、川本選手とタイトル争

いをしている岩坂有洋選手がまさかのミスコースでノータイム。第1ヒートトップの長谷川選手は大幅にタイムを更新するが、それを川本選手がコンマ5秒更新し、逆転優勝。

「もう何も考えずに走りました。2本目は前走車のトラブルで再出走したんですけど、逆に路面状況をつかめたと思って、プラス思考で走りました。自分、結構緊張しいなので(笑)」と今季3勝目でシリーズリーダーの座を死守。「クルマは万全だったんですが走りは80点くらいですね」と語る長谷川選手が2位に入った。

10台が参加したSCD1クラスは波乱の展開。子育て期間を経て15年ぶりの参戦となるシリーズリーダー坂井秀年選手は、第1ヒートをトップで折り返すものの、第2ヒートはミッ



N1クラス／1.左から5位・加藤勝利選手、4位・谷口成治郎選手、3位・恩田淳選手、2位・長谷川和也選手、優勝・川本圭祐選手。



2.1年半ぶりに出場した長谷川選手はblankを感じさせない走りです。3.恩田選手が第2ヒートでタイムを大きく更新して3位に入賞。



4.SCD1の1位は20年近く走ってタカタを知り尽くした原選手。
 5.PN1の藤原選手は大きなミスもなく1位に。6.SA1の1位は藤本選手で今季3勝めとなった。7.SCD1は鈴鹿選手が悔しさの残る2位という結果。8.PN1の2位は逆転を狙うも失敗してしまったという山谷選手。9.SA1で今季シリーズ2番手の松岡選手は惜しくも2位。10.RWDの横山選手は2位だったが次戦以降でポイントに望みをかけている。11.NS1の2位は現在ポイントトップの西田選手。12.SCD2の西元選手はミスがありながらも2位と健闘。13.RWDの1位は走りに難しかったと語った藤選手。14.SCD1の3位は小川英二選手。15.PN1は内海晋作選手が3位。16.SA1の3位は日高祥吾選手。17.RWDは徳永紘行選手が3位。18.NA1の3位は川戸惟寛選手。19.SCD2は織田一昭選手が3位。20.NS1の1位はチャンピオンを目指している浜選手。21.SCD2は藤田選手が両ヒートともに好タイムを出して1位。

ショントラブルでまさかの7位で終了。代わってタカタを20年くらい走り込んでいると語る原賢太郎選手が、第1ヒートを2番手で折り返し、第2ヒートは「平常心で走れたのが良かった」と2位に3秒近い差をつけて逆転優勝。

PN1クラスでは第1ヒートトップで全日本戦にもスポット参戦している藤原祐一郎選手が「自分は近畿地区なんですけど、近畿はPN1が成立しないので中国選手権に出ています。今季2勝目ですけど頑張ります」と逆転優勝。シ

リーズトップの山谷隆義選手が「最後のターンで失敗してしまいました」と2位で終わったが、シリーズリーダーは確保した。

SA1クラスでは「4年休んで復帰して3年めなんです。だいぶ調子は取り戻してるんですけど、まだ不安はありますね」と語る藤本慎太郎選手が第1ヒート2位からの逆転優勝。「ちょっとギヤ比が合わなかったですね。まあしょうがないです」と語る松岡修司選手が2位。藤本選手がシリーズトップを守った。

4WDマシンで争われるNS1クラスではシリーズリーダー西田司選手が「うまく走れなかったですね。でも、2位ならよしとします」と第1ヒート6番手から逆転で2位。シリーズトップを守った。優勝は「走りもハンドルをこじるようにリアを出さないでロスしない走りを心がけたのが良かったんでしょ」と語る浜孝佳選手が第1ヒート3番手から逆転優勝。シリーズ2位の大竹公二選手は「だいぶ派手にやってしまいましたね」とコースアウトを喫し、4位に終わった。

SCD2クラスでは、藤田宏明選手が両ヒートを制して優勝。「このクルマは今回のコース委員長の三好さんから譲ってもらいました。まだ慣れていないんですが、今回はようやくクルマと友達になれた感じがですね」とシリーズリーダーに躍り出た。2位には中国地区の名物アナウンサー西元直行選手が、全日本ドライバー梶岡悟選手のマシンをドライブし「気持ち良かったけどミスもしちゃった」と言いながらも入賞を果たした。



22.PN1クラス入賞の皆さん。右が優勝・藤原祐一郎選手。23.SA1クラス入賞の皆さん。右が優勝・藤本慎太郎選手。24.RWDクラス入賞の皆さん。右が優勝・藤秀亘選手。25.NS1クラス入賞の皆さん。右が優勝・浜孝佳選手。26.SCD1クラス入賞の皆さん。右が優勝・原賢太郎選手。27.SCD2クラス入賞の皆さん。右が優勝・藤田宏明選手。